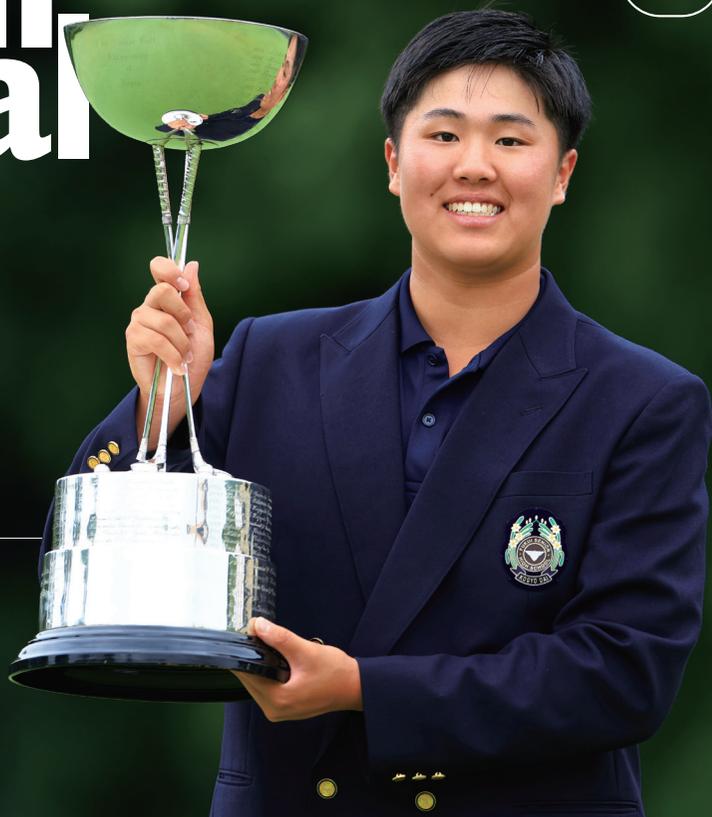


JAPAN GOLF ASSOCIATION

JGA Golf Journal



108th 2024 Japan
Amateur Golf
Championship

Champion
Mao Matsuyama



65th 2024 Japan
Women's Amateur
Golf Championship

Champion
Sakura Torii

ルーキープログラムが始動 ～世界基準の選手強化システムが完成へ～

ジュニアからプロまでの一貫した育成強化システムのカギとなる若手プロゴルファーを対象にしたルーキープログラムが今年秋、本格始動する。日本人選手の国際競技力向上に大きな期待が寄せられる同プログラムの内容や目的をルーキープロ強化委員会委員長でもある服部道子JGA常務理事に聞いた。



服部 道子（はっとり みちこ）
1968年生まれ、愛知県出身。高校1年時(1984)に日本女子アマを当時の最年少記録で制し、85年には全米女子アマ優勝。91年プロ入り、98年に賞金女王となる。今年JGA常務理事に就任。JOC理事も務める。

—— まず、ルーキープログラムとは、どのようなものなのかお聞かせください。

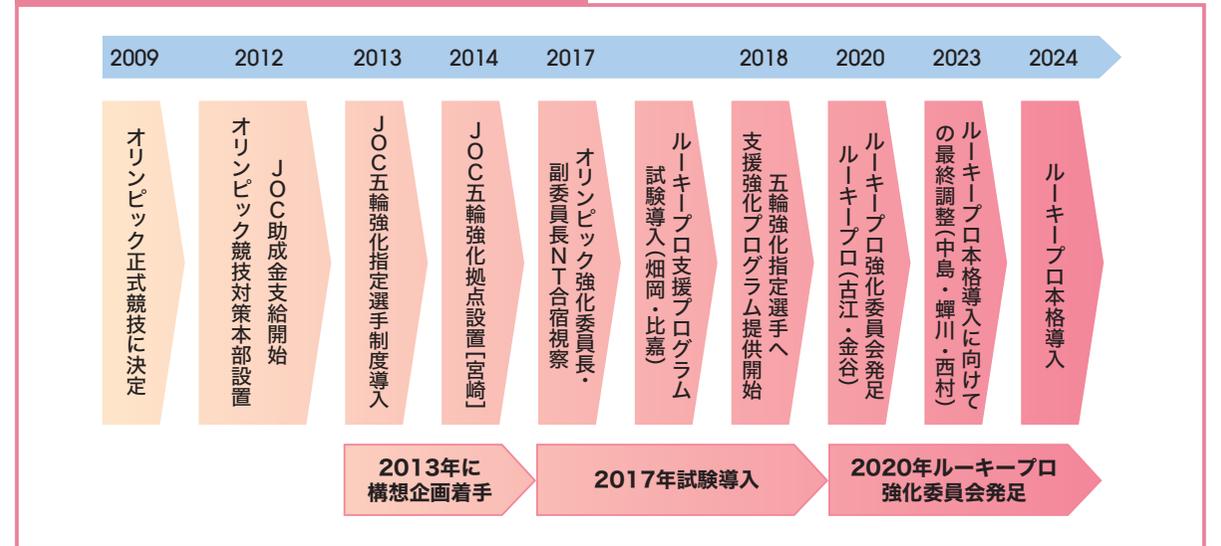
服部 アマチュアの世界とプロの世界では異なるところが多いと思います。たとえば、プロになれば毎週のようにあるトーナメントを乗り切る体力やモチベーションの維持が必要です。JGAナショナルチームで活躍していた選手でもプロになった時に環境の変化に戸惑い、実力を出せなくなることがあります。プロになったらそこで我々との関係が終わりになるのではなく、必要とする選手には引き続きJGAナショナルチーム時代のようにサポートしてプロの世界でも実力を発揮しやすい

環境をつくることを目的としたのがルーキープログラムです。

—— 服部さん自身、オリンピックのコーチもされています。オリンピックの代表選手は国のトップクラス。そこまでつながっていくプログラムなのでしょうか。

服部 オリンピック代表選手はプロですが、管轄はJGAになります。頂点を目指すというところでは一連のパスウェイ（過程）の流れとしてサポートしていくことが重要。今後、このパスウェイをトップのところまで構築していきたいと思っていますし、それが日本ゴルフ界の競技力の底上げになっていくと考えています。

ルーキープログラム発足までの経緯



—— ルーキープログラムはオーストラリア人のガレス・ジョーンズヘッドコーチ（HC）をはじめJGAナショナルチームのコーチ陣が担当になっています。2015年に現HCが就任してJGAナショナルチームの体制が大きく変わったことがルーキープログラムにもつながっていると感じます。

服部 それはあると思います。グローバルスタンダードという面ではガレスHCは世界のいろいろな協会のコーチとの横のつながりがありますから、さまざまな最新情報をくみ上げて常にアップデートできるという利点はあります。

—— 選手にとっては日ごろから彼らと交流することで、英語の習得など海外で戦う準備がしやすいのもメリットではないでしょうか。

服部 おっしゃる通りですね。英語もそうですし、カルチャーやマインドの面でもメリットはあります。ガレスHCはどちらかというと伴走型のコーチ。「君はどう思う」と自分で考えさせるコーチングです。日本人は控えめで、自分からというところがあまりありません。ですから自分主体で考えるというマインドを育むことは海外に出た時に大いに役立つと思います。これまで日本人選手は海外に行く戸惑う時間が長かったのかなと感じていましたが、若いころからこのような経験を重ねていくとより早くパフォーマンスを発揮できるようになるのではないのでしょうか。

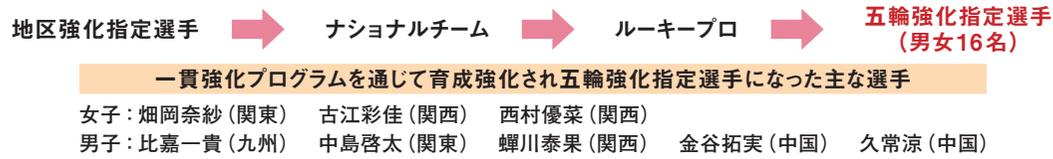
—— コーチ陣はいろんな分野の専門家がひとつのチームになってやっていますね。

服部 分業ですね。今の時代、栄養面でも体のことでも、そして、スコア分析、メンタルパフォーマンスなど、多くの専門分野において、より深い情報を求められており、各分野、常にアップデートされています。分業化したほうがより深く、必要な情報を選手に与えてサポートすることができます。今、分業化したチームが一体となって同じ方向を向き、選手を中心にしたいい形ができています。

—— コーチ陣以外はどのような方が担当されているのでしょうか。

服部 JGAの中にルーキープロ強化委員会を設置し、現在、委員長の私と馬場ゆかり委員の計2名が在籍しています。女子2名というのは理由があります。男子選手の場合は大学まで行ってからプロになるケースが多く、ガレスHCらがサポートする時間はあるのですが、女子の場合はほとんど高校3年でプロテスト受験になりますからJGAナショナルチーム在籍期間が短いのです。しかもプロテストの合格枠が20位タイまでとハード（男子の資格認定プロテスト合格は50位タイまで）なので、そこでプレッシャーを感じ、実力を出せないまま失敗して苦しんでいる選手がいます。その部分のサポートも大事ということで、女子プロテスト経験者である私と馬場さんが担当となりました。これからプログラムを進める中で、どのようなことが必要なのかが出てくると思いますから、男女プロゴルファーが在籍しているJGAアスリート委員会の委員に協力していただくなど柔軟に対応していこうと考えています。

強化システムによる実績 地区強化指定選手から五輪の強化指定選手へ



ジュニア時期からプロ転向後、停滞することなくスムーズに競技力を向上



古江彩佳 畑岡奈紗 比嘉一貴 中島啓太 蟬川泰果 金谷拓実

—— 本格的なスタートは今年からですが、ガレスHC就任時にJGAナショナルチームに在籍していた畑岡奈紗選手らはすでにプロ転向後も引き続き指導を受けていました。

服部 はい。当時、まだ私は携わっていませんでしたが、どのようなサポートが必要なのか、試験的にやっていたと聞きます。畑岡さんの場合は高校を出てすぐにアメリカに渡りました。当時は宮里藍さんが第一線を退くなどしてアメリカでプレーする日本人選手の数が少なくなっており、不安な要素も多かったので彼女自身がサポートを求めているようです。畑岡さんをはじめ女子はJGAナショナルチーム出身者が次々に米女子ツアーで活躍するようになりましたし、男子でもガレスHCに学んだ金谷拓実さんや久常涼さん、中島啓太さんが海外で優勝していますから、有益なプログラムだと証明されているのではないのでしょうか。

—— ルーキープログラムの本格始動でさらに日本人選手の活躍が期待されるのではないのでしょうか。

服部 そう感じます。よりアップデートされた世界の情報を各分野の専門家が得ながら共有し合い、各選手がそれぞれ必要なものを落とし込みながら自分の目標に向かって自信を持って進めると思います。また、結果を出した選手たちが後輩たちの芽を伸ばしていってくれることも期待できますので、いい形で流れていってくれるのではないのでしょうか。これからもトライアンドエラーをしながらブラッシュアップしていきたいと思っています。



シヨットゲームの練習をする杉浦悠太



スイングチェックを受ける杉浦悠太



フィジカルチェックを受ける米澤蓮

ルーキープログラム概要説明

ルーキープログラムの構想に着手したのは2013年のこと。ゴルフがオリンピック正式競技に復帰したリオデジャネイロ大会(2016年)を控え、JOC五輪強化指定選手制度を導入した年だった。

オリンピックをはじめとした国際競技で日本人選手が結果を出していくためにはアマチュアとプロの垣根を取り払い、一貫した育成強化体制が必要との認識からだった。

この構想を推し進める大きな要因となったのが、2015年にJGAナショナルチームのHCを初めて海外から招へいしたことだ。HCに就任したのは英国出身のオーストラリア人でコーチを務めたガレス・ジョーンズ氏。低迷していた同国のナショナルチームを復活させた実績を持つ同HCはフィジカルや動作解析など各分野の専門家とチームを組み、科学的なアプローチによる世界最先端の強化プログラムで選手を指導。就任直後にノムラカップアジア太平洋アマチュアチーム選手権を26年ぶりに制して優勝、翌2016年にはJGAナショナルチーム在籍中だった高校3年の畑岡奈紗が日本女子オープンで優勝するなどすぐに結果を出した。

日本女子オープン優勝後にプロ転向した畑岡らに対し2017年からルーキープロ支援プログラムを試験的に導入。引き続きJGAナショナルチームコーチ陣のサポートを受けることになった。

さらに、2020年にはルーキープロ強化委員会を発足させてルーキープログラムの本格導入に向けての道筋を整備していった。

なぜプロ団体ではなくJGAがプロゴルファーのサポートをするのかという疑問を持たれる方がいるかもしれない。理解していただきたいのは、このプログラムはスポーツ庁が策定した「持続可能な国際競技力向上プラン」に準じたものであるということ。このプランでは、ジュニアからプロまでシームレスな一貫育成強化システムを構築し、国際競技力を向上させるには中央競技団体(NF)が総合的・計画的に取り組むことが不可欠とされており、ゴルフのNFであるJGAが担っているわけだ。

JGAが採用している一貫育成強化システムはFTEMモデルと呼ばれており、海外のゴルフ団体を含め、国内外の多くの競技団体が活用している世界基準の強化システム。各地区のジュニア競技などから有望選手を発掘し、国際舞台で活躍できるまでに育成・強化していくもので、最後のピースであったルーキープログラムの導入によって完成したといえる。

ルーキープログラムにはJGAナショナルチーム卒業生だけでなく在籍経験がなくても条件を満たせば参加できる。費用はJOCから支給される助成金の一部などが充てられる。

JGA FTEM 一貫育成強化システム



ルーキープロ インタビュー

ルーキープログラムは今年春からプレ合宿を繰り返して10月の本格始動に向けて準備を整えている。プレ合宿に参加した選手の中からプロ1年目の大嶋港と、今年の中日クラウンズでプロ初優勝を飾った米澤蓮に、このプログラムについての感想や効果を語ってもらった。

信頼できるコーチ陣の存在がプロ初優勝につながった

JGAナショナルチームに在籍した4年間でレベルアップできたと思っていますし、オーストラリア人のコーチらと日常的に連絡を取り合ったり、一緒に過ごしたりしたことは自分にとって刺激的でした。コーチ陣は選手個人を尊重してそれぞれに寄り添った指導してくれる。技術面だけではなく英語力を磨いたり、海外の環境、文化に触れるなど多くのことを学ばせていただき、それが自分の中で大いに役立っています。プロになるとその関係が終わってしまうのはつらいところがありましたが、引き続きサポートしていただけるのは何より嬉しいことです。

彼らは信頼でき、相談できる存在。そんな人がいることが1年間戦う上で技術よりもむしろ大事なことなのではないかと感じています。プロになって苦しい時期がありましたが、近くに相談できる人がいたからこそ乗り越えることができて、今年5月の初優勝につながった。そう感じています。



米澤 蓮 (よねざわ れん)
1999年生まれ、岩手県出身。2018年からJGAナショナルチームで活躍し、同年のアジア大会で団体金メダルに貢献。21年末プロ転向。2024年5月の中日クラウンズでプロ初優勝。

ナショナルチームと同じ環境で練習できることに感謝

JGAナショナルチーム時代から各分野のコーチが専門的に教えてくれて、素晴らしい環境だと感じていました。技術面はもちろんのこと、フィジカル、メンタル、栄養面などすべてに新しい発見があって非常に役立っています。プロになってもこのように同じ環境で練習させていただけるのは嬉しいこと。サポートを受けられる間に得られるものは全部吸収して、プラスにしていきたいですね。

それに、合宿では中島啓太さんらすごい先輩たちと一緒に過ごせることが本当にいい勉強になります。練習が終わった後も食事をしたり、温泉に入ったりしながら海外のことなどいろんな話を聞けるのがすごくいい経験になっています。トーナメント会場ではなかなかそこまでできないですから、このような機会はありがたいです。私も将来は先輩方のように実績を積んで、後輩に自分の経験を伝えていけるような存在になりたいと思います。



大嶋 港 (おおしま みなと)
2005年生まれ、岡山県出身。21年、関西高校1年時に日本ジュニアで優勝し、22、23年とJGAナショナルチームに在籍。プロ転向初年の2024年にABEMAツアーでプロ初優勝を飾る。

個人・法人のご寄附は税制上の優遇措置を受けることができます。

選手の育成強化
日本代表支援

寄附金
募集中!!

世界へ羽ばたけ ゴルフ日本代表

国際競技において、活躍できる選手の育成強化並びに国際競技への日本代表選手派遣のため、皆様のサポートをお願いいたします。

募集対象

- 1 選手強化プログラムの構築
- 2 国際競技への日本代表選手の派遣や強化合宿の実施
- 3 指導者育成強化プログラムの構築

国際大会で活躍する日本代表選手をご支援ください

ナショナルチームヘッドコーチ ガレス・ジョーンズ



日本代表女子コーチ 服部道子 日本代表監督 丸山茂樹

●募集期間

2022年4月1日～
2025年3月31日

寄附金申込

クレジット決済と銀行振込からお選びいただけます。
www.jga.or.jp/jga/html/donation



2022年度ナショナルチーム

母として、プロゴルファーとして

2010年大会(大根CC)チャンピオン 宮里美香が語る現在と未来

日米両ツアーで優勝歴があり、結婚、出産を経て今季から復帰した宮里美香プロ。育児とツアー参戦を両立させている今、ゴルフとどう向き合っているのか。母親として初めて挑む日本女子オープンへの思いや将来の構想などを含め、山中博史JGA現専務執行役・オープン事業本部本部長が聞いた。



育児とツアー参戦の両立について語る山中博史現専務執行役と宮里美香

山中 今回はアメリカでプロになって、その後、日本に戻って結婚、出産、そして復帰とさまざまな経験をされてきた宮里美香さんに母親として、プロゴルファーとしての現在地や未来予想図をお聞きしたいと思います。

宮里 よろしくお願ひします。

山中 ご長男を出産されたのは2022年の11月でしたね。

宮里 はい。

山中 出産後、どのくらいでゴルフを再開されたのですか。

宮里 出産後3か月で一度クラブは握りましたが、どちらかというとトレーニングを先に再開しました。

山中 体を先に。

宮里 はい。4か月でトレーニングを始めました。ゴルフの練習をしっかりと始めたのは2023年の11月。子供の保育園が決まってからです。

山中 トレーニングは大変だったでしょう。アスリートの体に戻さなきゃいけないわけですから。

宮里 そうです。出産で開いたままになっている骨盤を元の状態に戻すのですが、それには時間がかかります。戻らないままゴルフの練習をするとそれまでとは違う姿勢になる危険性がありますから、まずはトレーニングをしっかりとやりました。

山中 本格的にプレーするまでにどのくらいの期間、トレーニングをしたのですか。

宮里 半年くらいはしっかりとやりました。



2004年日本女子アマチュアゴルフ選手権優勝
14歳8ヶ月の史上最年少優勝記録を樹立

2006年驚異の大逆転劇で初優勝を飾った日本ジュニアゴルフ選手権(上)
2007年同大会でプレーオフを制し連覇を達成(下)



大根CCで和やかな雰囲気でお話が行われた

山中 久しぶりにクラブを握った時はいかがでしたか。感覚はすぐに戻るものですか。

宮里 最初はすごく体が重くて、全然違う感じがしましたが、大きいショットはそれほど問題がありませんでした。ただ、ショートゲームは鈍っているなという感覚はありましたね。

山中 ツアーに復帰しようという考えはずっと持っていたらよかったわけですね。

宮里 はい。私はシードを持っている状態で産休に入ったので一度復帰したほうが良いと考えていました。もう、それほど若くない(10月で35歳)ですから、できれば早く復帰したいと思って今年、2024年を選びました。

山中 復帰後、何試合かプレーされましたが、少し慣れてきましたか。

宮里 はい、少しずつですけれど。ただ、これから暑くなっていくので、それが心配です。

山中 ツアーに復帰するにあたってご家族や周囲のサポートは欠かせなかったと思います。

宮里 それは大きいですね。サポートがなければ復帰できていません。子供ができると生活がこんなにも変わるのだということに身染みて感じていますし、今、試合で一週間家を離れるのは正直に言って不安です。

でも、母が故郷の沖縄から上京して子供の面倒をくれるので本当にありがたいです。レーサーの夫は

基本的には週末が仕事なのですが、仕事がない時は試合会場に来てくれますし、子供の面倒も見てくれています。

山中 練習やトレーニングの時間の確保も簡単ではないですね。

宮里 以前のように何時間も練習することはできません。保育園が午前9時から午後5時までなので、その間にうまく時間を使って練習やトレーニングをしています。1時間でもすごく大事で、その分、中身は濃くなりますね。

山中 宮里さんがプロになるまでのお話もお聞きしたいと思います。中学3年の時に日本女子アマに勝ちましたし、日本ジュニア(12~14歳の部)でも優勝しました。沖縄の強い選手は県外の高校に進学することが多いと思いますが、宮里さんは沖縄県内の、しかもゴルフ部のない高校に進学しました。どのような経緯だったのですか。

宮里 もともとは県外の高校に進学する予定だったのですが、沖縄のゴルフ環境で日本女子アマに優勝できたのだから、そのままでもいいのではないかと両親と話しました。地元で一番近い興南高校にはゴルフ部がなかったのですが、当時の理事長さんが「あなたが来てくれるのならゴルフ部をつくります」とおっしゃってくれたので、同校に行くことに決めました。



ナショナルチームの経験や米女子ツアー挑戦など当時の心境を語る

山中 高校を出ると、すぐにアメリカに渡りましたよね。日本ではなくアメリカでプロになったのは、どうしてですか。

宮里 高校時代にJGAナショナルチームに入って、海外遠征をたくさん経験させていただいて世界というものを見ることができました。そこで知り合いになった台湾のヤニ・ツェン選手が全米女子プロで優勝するのをテレビで見て「私もアメリカに行きたい」と思って周囲に相談したのです。すると、「フロリダにIMGアカデミーがあるから、そこで練習して米女子ツアーを目指してみるのはどうか」という流れで渡米。向こうでプロになりました。

山中 慣れない環境の中で大変だったでしょう。当時は言葉の方は？

宮里 英語はそんなにできるほうではなかったのですが、大変という思いはなかったですね。

山中 むしろ楽しかったわけですか。

宮里 最初は刺激がいっぱいでした(笑)。

山中 その後、宮里さんはアメリカで優勝されましたし、2011、12年の2年間でメジャー8試合中6回もトップ10に入るなど大舞台でも存在感を示していました。世界ランキングは最高8位にまで上がっています。これだけアメリカで活躍していると、なかなか日本の試合には出ないと思うのですが宮里さんは日本女子オープンに毎年帰ってきてくれましたね。

宮里 私はJGAナショナルチームに在籍していた期間が4年ほどあったのですが、JGAにはすごくお世話になったので恩返しという意味で日本女子オープンには絶対に出たいと思っていました。

山中 アメリカのツアーでプレーしながら日本に戻ってくるのは大変でしょう。時差もありますし。



2007年ネイバーストロフィーチーム選手権団体優勝の女子チーム。左から小林弘実コーチ、宮里美香、森桜子、藤本麻子、新井麻衣、水谷美恵コーチ



2008年クイーンシリキットカップ アジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権に共に出場した森田理香子(左)と藤本麻子(右)

宮里 日本女子オープンの開催時期は毎年決まっていますから、それに合わせてスケジュールリングしてうまくやっていました。

山中 その中で2010年、20歳の時に大利根カントリークラブ・東コースで行われた日本女子オープンで優勝しましたね。その前年は3日目を終えて4打差首位に立っていたながら78と崩れてしまう悔しい負け方をしていました。2010年も同じく4打のリードで最終ラウンド。前年のことがトラウマになってはいませんでしたか。

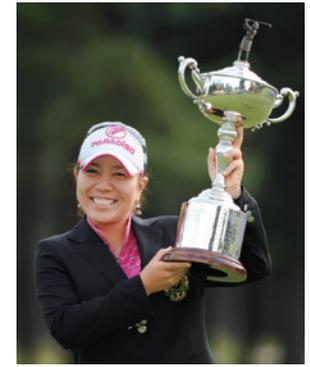
宮里 トラウマはなかったです。むしろ同じシチュエーションでリベンジできるという楽しみがありましたし、同郷の先輩上原彩子さんが同じ最終組でしたのですごく回りやすかったです。

山中 シビアなパットをいくつも決めていましたね。

宮里 はい。パットが冴えていました。



2010年日本女子オープンゴルフ選手権に優勝し同郷の先輩、宮里藍からの祝福を受ける



2010年日本女子オープンゴルフ選手権初優勝



2013年2度目の日本女子オープンゴルフ選手権制覇

山中 終わってみれば6打差の快勝。あの年は宮里藍さんや横峯さくらさん、それに米女子ツアーから冒頭で話に出ていたヤニ・ツェンさんやチェ・ナヨンさん、それに全米女子アマに勝ったダニエル・カンさんら錚々たるメンバーが出ている中でのぶっち切り。藍さんが18番のグリーンサイドで待っていて祝福してくれました。

宮里 まさか待ってくれていると思わなかったのですが、すごく嬉しかったです。今でも思い出すと涙が出そうになります。

山中 感動的なシーンでした。あれは宮里さんにとってプロ初優勝でしたね。その3年後にも勝って日本女子オープンでは計2勝。素晴らしい実績を残されています。JGA100周年でもある今年の日本女子オープン会場は宮里さんが初優勝を飾った2010年以來の大利根カントリークラブです。使用コースは前回の東ではなく西コース。すでにプレーされたと聞きましたが印象はいかがでしたか。

宮里 シビアなティーショットが求められるホールが多いと感じました。単にフェアウェイをキープだけでなく、フェアウェイのどこに打つのがキーになりそう。ポジションによってはフェアウェイでもグリーンを狙うのが難しくなりますからティーショットの技術の高さが必要で、フェードヒッターが有利なのかなという印象を受けました。

山中 宮里さんにとっては出産後、初めての日本女子オープンになります。意気込みのほどはいかがでしょう。

宮里 優勝した時とは違うコースですが、私本来のアグレッシブなプレーをみなさんにお見せできたらいいなと思っています。

山中 最後に、プロゴルファーとして、あるいは女性としてこれからどのような活動をしていくのか、お聞かせ願えますか。

宮里 まだ明確になっていませんが、ママさんゴルファーになったので、そんな私にしかできないことをやっていきたいなと思っています。今年は現役としてプレーしていますから、まずはママとしても強いんだぞという姿をみなさんにお見せできればと思いますし、小さいころからゴルフをしてきましたので、いろんな形でゴルフ界を盛り上げていければと思っています。

山中 一般のゴルファーには母親になってからなかなかゴルフに行けなくなったという方もいると思います。そんな方にメッセージをいただけますか。

宮里 子供と一緒にいることは大事ですが、ずっと家にいると気持ちがナイーブになったりするので時にはゴルフをして自分自身の時間を楽しんでほしいと思います。

山中 ありがとうございます。